

草津地区を流れる御幸川の整備



平野太祐 新政クラブ



問 昭和57年の埋立竣工以降の課題である御幸川の河川改修について、令和7年度どのようなことに着手するのか。

答 御幸川の河川改修については、上流域に降った雨を安全に流下させるための洪水対策と、高潮発生時の浸水を防ぐための高潮対策の二つの事業を実施する計画である。今後高潮対策として、河口部付近の一部を埋め立て、防潮水門と排水機場を整備することとしており、令和7年度から、埋め立てに伴う周辺環境への影響の可能性を把握するための現地調査を行う予定である。

ペット同伴の避難

問 屋内で飼い主とペットが安心して避難できる区域を設けることは考えないのか。

答 避難所においてペットが避難できる屋内の区域を設定するには、他の避難者や施設管理者の理解を得るための解決すべき課題がある。本市としては、避難すべき方がペットの飼育スペースを理由に、避難自体をためらうことがないよう、国、他の自治体の事例や動向を踏まえつつ、避難行動を促すことにつながる組みと組みとして検討する必要があると考えている。



こどもの見守り



西佐古晋平 自民党・市民クラブ



問 2005年に安芸区矢野で発生した小学生殺害事件から20年の節目を迎える。事件の風化を防ぐ意味でも、改めて「こどもの安全」に対する取り組みを強化する必要があると思うがどうか。

答 本市では、こどもを犯罪から守るために、警察や関係部局と連携しながら、学校や教育委員会、家庭・地域が一体となって、登下校時に地域全体で見守る態勢づくりに取り組んできた。近年は、企業や学生に対して、見守り活動への協力を働き掛けるなど、担い手確保に取り組んでいる。今後、市内の地域団体が集まる機会に、継続的に充実した見守り活動を行っている事例を発表する場を設けるなどし、地域全体でこどもを守る機運を高め、各地域のこどもの見守り態勢が維持・充実されるよう努める。

瀬野川公園30周年

問 瀬野川公園は開設30周年を迎えるが、これに合わせた地域の盛り上がりや後押しするため、ミニサッカー場を設けるなど、再整備に取り組みすべきと思うがどうか。

答 開設から30年が経過し、利用者が少ない施設もあることから、指定管理者と連携し、利用ニーズの把握や関係団体等への聞き取りなどにより現状を把握し、より一層多くの市民に利用してもらえる公園となるよう、議員提案の内容も含め検討していく。

広島城天守の復元



並川雄一 公明党



問 広島城天守の木造復元については、市民に分かりやすく意義や政策目的を整理し、木造以外の選択肢も含めた費用の算出をする必要がある。こうした点を踏まえて広島城天守の復元に取り組んでいくべきでは。

答 本市では広島城天守の木造復元に向けて、令和3年3月から本格的な調査・検討を開始した。令和5年度には、「広島城天守の復元等に関する検討会議」を設置し、専門的かつ多岐にわたる検討を行っている。広島城天守の木造復元の意義や費用等については、令和7年度に開催する同検討会議において整理し、木造復元の実現可能性を高めていく。

官民境界資料のデジタル化

問 官民境界の確定に際して作成した全ての資料をデジタル化すべきではないか。また、官民境界を確定した場所等を示す地図については、本市の統合GIS上に実装すべきではないか。

答 境界確認書類には1件当たり地積測量図や登記事項証明書など数多くの資料が添付されている。さらには、こうした書類が新たに毎年約2500件ずつ蓄積されることから、過去からの全資料をデジタル化するには相当の経費と時間を要するものと想定される。このため、まずは、デジタル化に必要な経費等について、他都市等に聞き取るなど調査研究に取り組むたい。

学問と「ヒロシマの心」の推進



若林新三 市民連合・市民の声



問 「広島・長崎講座」は被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という「ヒロシマの心」を学問として整理したもので、国内外の78大学で開設されている。さらに開設を働き掛け、拡充する必要があるがどうか。

答 次世代への被爆体験の継承を図る上で「広島・長崎講座」は重要な取り組みであることから、その普及拡大を図る必要がある。被爆80周年を機に、これまで行ってきた大学関係者の広島訪問や海外原爆・平和展の機会などを捉えた講座開設の呼び掛けや平和首長会議加盟都市を通じた働き掛けなどに加え、政令指定都市の市立大学等への呼び掛け、市内の大学への個別訪問による打診を行っていると考えている。

モビリーデイズの推進

問 各バス事業者でのモビリーデイズの導入について、今後どのように進めていくのか。また、新たに展開できるサービスはどのようなものがあるか。

答 広島バス、広島交通、JRバス中国の3社においては、令和6年度末までに広島電鉄と共同運行している路線を中心に、先行的にモビリーデイズを導入する予定である。また、導入により、地域限定の運賃設定や流通系電子マネーによる乗降時の決済、生体認証の導入などが可能となる。

商工センター地区のまちづくり



三宅朗充 自民党・市民クラブ



問 新たなMICE施設の整備に当たっては、本市企業の魅力発信拠点となるよう、展示室に加えて、広島のものづくり企業が製品や技術などを紹介できる常設の展示スペースを設置してはどうか。

答 「商工センター地区まちづくりビジョン」の素案において、新たなMICE施設には、展示会やイベント等を行える約6000平方メートルの展示室を設けるほか、広島広域都市圏内のさまざまな魅力の発信機能などの導入について検討することとしている。議員提案の常設展示スペースについてもビジョン策定後に検討したい。



商工センター周辺地区上空写真

無人駅の利便性の向上

問 JR芸備線には多くの無人駅がある。JR西日本と日本郵便とが業務連携し、駅と郵便局の窓口機能を一体的に運営すれば、無人駅利用者の利便性の向上につながるかと考えるがどうか。

答 本市では、JR芸備線沿線の3市で立ち上げた「三次・安芸高田・広島まちづくり交通協議会」において、芸備線を軸とした公共交通ネットワークを将来にわたって地域住民に活用されるものにしていくための議論を行っている。議員提案のJR西日本と日本郵便との連携による駅の機能強化についてもしっかりと議論していきたい。

用語解説

本文中に赤表記した用語を解説しています

1 ユマニチュード

ユマニチュードとは「人間らしさを取り戻す」という意味のフランス語の造語であり、フランスの体育学の専門家が開発した知覚・聴覚・触覚などを用いたコミュニケーションに基づく介護ケア技法のこと。「人間としての尊厳」、「その人らしさ」を大切にし、あなたを大切に思っているということを相手に伝える技術であるとともに、ケアをする側とされる側のポジティブな関係を構築するための考え方でもある。

2 デフリンピック

耳が聞こえない、聞こえにくいアスリートたちによる国際的なスポーツの祭典のこと。英語で「耳が聞こえない」という意味の「デフ」と「オリンピック」の造語であり、オリンピックと同様、4年に一度開催される。

3 医療的ケア児

人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。

4 官民境界

行政が管理する道路などと、個人等が所有する土地との境界のこと。

5 統合型GIS

地方公共団体が利用する地図データのうち、道路、河川など複数の部局が利用するデータを各部局が共用できる形で整備し、利用する庁内横断的なシステムのこと。

6 広島・長崎講座

広島・長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝える国内外の大学・大学院の講座で、本市・長崎市・(公財)広島平和文化センターが認定したもの。

7 MICE (マイス)

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字からなる造語で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

※紙面の都合上、1人2問以内で掲載しています。 ※質問内容は、発言議員本人の提出によるものです。